2014年6月26日掲載　信濃毎日新聞　外務省高校講座

信濃毎日新聞　2014年（平成26年）6月26日　木曜日

国際的な仕事に興味津々

松本秀峰 外務省職員招き学ぶ

外務省の柴田さん（左）の話を聞く生徒たち

松本秀峰中等教育学校（松本市埋橋2）は24日、外務省北米局北米第二課の柴田隆課長補佐を招き、外務省の仕事について学んだ。後期課程4、5年生（高校1、2年相当）の計約160人が国際的な仕事に理解を深めた。

柴田さんは韓国や北朝鮮を担当する北東アジア課に所属した時、拉致、ミサイルなど大きな問題が山積みだったと説明。「ある問題が解決しないからといって、経済交流といった別の関係が止まらないようにコントロールするのが外務省の仕事」と強調した。「自分が1日休むと、政府の対応が1日遅くなるという緊張感がある」とし、「全体の中で与えられた役割を果たすのが大事。皆さんも文化祭などで、似たような緊張を味わうと思う」と話した。

同校では、現在の4、5年生は、4年生の春に英国で英語学習や現地の企業見学などの研修をしている。4年生の和地恵さん(15)＝諏訪市高島＝は、柴田さんの話を聞き、「英語での意思疎通がまだ難しいが、（将来は）海外と関わる仕事をしたい。勉強や日々の生活で足りない部分を考え、頑張りたい」と刺激を受けていた。